

## 滞在日程

第1日 6月23日(土) North West 0015便 関西空港着

阿武野高校各ファミリー

第2日 6月24日(日) 阿武野高校ステイ

第3日 6月25日(月) 同上

第4日 6月26日(火) 同上

第5日 6月27日(水) 同上

第6日 6月28日(木) ホスト交代(阿武野高校 北野高校)

第7日 6月29日(金) 北野高校ステイ 午前 オリエンテーション

昼休み 生徒集会にて紹介

第8日 6月30日(土) 終日各ホストファミリーと共に

第9日 7月1日(日) 終日各ホストファミリーと共に

第10日 7月2日(月) 北野高校ステイ

第11日 7月3日(火) 北野高校ステイ

第12日 7月4日(水) 同上 放課後 さよならパーティー(同窓会館)

第13日 7月5日(木) 高槻市観光協会による奈良観光

第14日 7月6日(金) 岸和田市内観光 North West 0016便 関西空港発帰途に

# 交流の日々

## 1 Lynn & Aさんご家族

### Lynnのホストになって

#### 年4組 A.Yさん

私はリンをホストファミリーとして受け入れて本当に良かったと思います。この体験により、私はたくさんアメリカについて学びました。初めて会うときはとても緊張していました。リンも同じだったのか結局帰りの車の中でも少ししか話せませんでした。次の朝の電車はアメリカでは方式が違うのか改札で少し戸惑っていました。そのあとの満員電車もリンは初めて体験したようで、学校に着くまでに少し疲れてしまったみたいでした。でも2日目以降はそれにも慣れて人に押されて私と離れても「See you later, Yuki!」などと言っていました。

リンとは、いくつかの授業も一緒に受けました。リンは数学が好きで、はじめは「暑いから部屋で休んでる」と言っている、次が数学だと聞くと「やっぱり行く」と言うほどでした。そしてキッチリ65分間、日本語で行われる授業を受けて、問題を解いていました。数学は万国共通なんだなと思いました。

帰りには音楽を聴かせてくれました。その中には知っている曲がいくつかあり、日本の曲もいくつかありました。驚いて聞いてみるとCMなどで流れているそうです。日本で人気の洋楽などもあり、家でテレビを見ているときに音楽番組で曲が流れると、リンも驚いていました。

リンは約一週間私と一緒にいました。もっと長いと思っていましたが、実際はとても短かったです。今回このようなめったにない機会によってリンと友達になれたので、これからも交流を続けていきたいと思います。

### ホストファミリーを終えて

#### Aさん（保護者）

ホストファミリーに決定して、まず考えたのが、どの部屋を使ってもらおうかなということでした。あまり広くない賃貸マンションなので、余っている部屋などなく末の息子の部屋を片付けて、私の部屋と一緒に寝ることにしたとしても、単身赴任中の夫が帰ってく

る週末はどうするのか。私の帰りが遅いので、片付けるにしても準備できる時間はごく限られているし、ハードルは高いのでした。それでも到着の日までには、何とか荷物を置く場所を確保し、引き出しも一部空けて、一応の準備をすることができました。

事前にEメールのやりとりをしようと思っていましたが、メールを出すのが遅すぎて出発までに返事をもらえませんでした。そもそも子どもたちより早く私ที่บ้านに帰るのには無理だったので、こんな家庭に受け入れてよかったのか本気で悩みました。

準備不足は実際にリンに会ってから解消するしかありません。幸いこれといってアレルギーなどもなく、宗教的、思想的な禁止事項もありませんでした。このようにバタバタと始まったホストでしたが一週間は本当にあっという間でした。週末以外は思った以上に時間が無くて、言葉の問題もあり、あまりたくさん話せませんでした。もっといろんなことを聞きたかったなと思います。お互い慣れた頃に終わりなので、もっと期間が長ければよかったのにと思いました。

一日目迎えに行った車で話しているときに「友紀は車で（運転して）学校に行っているの？」と聞かれました。アメリカでは一般的なんですね。そういえばGoogleで見た学校の航空写真はグラウンドより駐車場が広がったです。そういうわけで、わが家からモノレール駅までひたすら登る道も、阪急電車のラッシュも、リンにとっては相当きつかったようです。

リンの両親はベトナム出身なので、日本の食べ物にもあまり抵抗がなく、お箸の使い方も上手で、私にとっては料理が負担になることはありませんでした。ケントウッド、ケントレイクともアジア系の生徒が多いのかと思いきや、実際は少なく、ただホームステイを希望するのは、何らかの形でアジアに関係のある生徒が多いのだということでした。

唯一困ったことは、シャワーと身支度に時間がかかることでした。それでもバスルームを長時間占領しては悪いと思っているようで、朝起きるとすぐにシャワーにとりかかるので、他の人と重なりにくく、あまり不都合はありませんでした。その後メイクなどに時間がかかるので待ち合わせが決まっているときなどは、少しやきもきました。

もう一つ、自宅に電話させてあげられなかったのも残念でした。国際電話はズいぶん安いので、好きなだけ使わせてあげたかったのですが、リンのお母さんは平日仕事に出ているのでこちらからかけられる時間に、向こうは明け方、週末は出かけてしまったので、結局電話はできませんでした。

ホストファミリーとしてうまくいったのかどうか、自信はありませんが、娘にとっても、弟たちにとっても、また私にとっても全く違うバックグラウンドを持つ人と一緒に過ごせたことは、何物にも代え難い経験であったことは間違いありません。機会があればまたホ

ストファミリーをやってみたいと思っています。

## 2 Lauren & M さんご家族

Lauren と出会えて

1年5組 M .M さん

Lauren と出会えて、Lauren のホストファミリーとして一週間を共に過ごせて、本当に良かったです。

初日、Lauren がバスから降りてきて初めて喋ったとき、とても緊張したのをよく覚えています。毎朝一緒に登校したり、下校したりするうちにいろいろ話せるようになりました。たぶん私の英語はめちゃくちゃだったと思います。でも、Lauren はちゃんと私の話を聞いてくれて、理解してくれました。一緒に音楽を聴いたり、学校の話をしたり、授業中に電子辞書でお喋りしたり…。Lauren と普通の友達のように仲良くできるようになってからはすごくたのしかったです。

普段使い慣れない英語だらけの生活に私の頭は毎日ショート寸前だったけれど、一日がたつのはとても早く、毎日がとても楽しかったです。Lauren はとてもしっかりしていて、私にとっては「尊敬できるお姉さん」という感じです。でも、私に負けないくらいショッピングが大好きで、恋愛話が大好きで、笑顔が似合うpretty girl です！！

そんなLauren は私に「Best Friend」だと言ってくれました。初めは遠い存在だと思っていた「外国人の女の子」のLauren とこんなにも仲良くなれて、一緒に笑い合うことができて本当に幸せでした。

Lauren と過ごした一週間で普段の生活では気付かないようなことにも気付かされ、とても充実していました。このような機会を与えてくださった先生方、私たち二人をサポートしてくれた家族、協力してくれた友達に感謝したいです。そして、Lauren には心から「ありがとう」と言いたいです。

留学生ローレンと娘の 1週間を見つめて

M さん（保護者）

6月28日 曇り 小雨交じり

留学生 4 人がバスで北野に到着・・・

この日から滞在記録として綴った日誌を、ついこの間のことなのにもう懐かしいような、不思議な気持ちで読み返しています。 この間私ども家族は大変有意義で貴重な経験をさせていただきました。ご尽力下さった関係者の方々に心より御礼申し上げます。 日誌を終えるにあたり、2 人の娘たちを見つめたこの 1 週間を振り返り、親として感じたことを記したいと思います。

我が家に来てくれたローレンは母校 Kentlake 高では早朝 6 時台から始まる「0 時間目授業」を選択し、帰宅後両親が戻るまで未だ幼い弟妹たちの面倒を見た後、毎日 2 時間以上はかかる課題をこなすという、信じられないような hard worker です。将来は医師になりたいと教えてくれました。 娘の茉祐子も北野高校に入学以来、多忙な日々を送っていますが、はるか海の向こうで同じ世代の仲間が夢に向かって日々精進していると知りえたことは、大きな刺激に、そして励みになったに違いありません。

彼女との関わりの中で、私たちの習慣、考え方には多くの違いがあることが判りました。時にはそこから不都合が発生したり、誤解が生じたりもしますが、こうして会って話すことにより理解され、尊重しあえる事も分かりました。また同じ位多くの共通点・・・年頃の学生らしい無邪気な好奇心、将来に対する漠然とした不安、そして人として尊び、重んじていること・・・もあり、それらを小さな感動と共に感じ取れた時はお互いの距離がぐっと縮まった瞬間だったようです。

今回のホスト提案時には英語での意思疎通に不安を示し、受け入れ直前には電子辞書をちらつかせ開き直っていた(!) 娘ですが、ローレンと本当に“会話”をするには高価な辞書も英会話集も、大きな助けにはならないことに気付いたかもしれません。 相手のことを知ると同時に自らの身辺についてもよく知り、考えを纏め、伝える事(そのタイミングと方法は日・米それぞれですが・・・)の大切さ、難しさを痛感したことと思います。

今後の高校生活で様々な書物や人々の意見にふれ、広い視野と物事を見極める目を養って欲しいと願っています。

今回知り合った Kentwood, Kentlake の生徒達は皆たくましく、まぶしく、そして素直な学生達でした。梅雨空を吹き飛ばすような明るさで駆け抜けていったので、去っていった後の虚しさから日常を取り戻すのに多少の時間がかかりました・・・。彼らや北野生の日々の努力がいつか実を結び、夢が実現する日が来ることを願ってやみません。

### 3 Stacey & Y さんご家族

## 7日間の幸せ

1年5組 Y A さん

Staceyと会うまでは毎日緊張しっぱなしでした。「ちゃんと食事を食べてくれるかなあ」とか「葵の英語ちゃんと通じるかなあ」とか、すごく不安でした。

いよいよ対面の日。お互い緊張していて、帰りの車の中で何を話したのかよく覚えていません。でも徐々に打ちとけてきて、家につくころには、不安よりも楽しみのほうが大きくなっていました。

Staceyは日本語がすごく上手で、コミュニケーションがとりやすかったです。葵は休日までクラブがあって、一日中、Staceyと遊びまわるといことはできませんでしたが、Staceyがクラブを見に来てくれたり、クラブが始まる前の時間にちょこっと遊びに行ったり、楽しかったです。

吉田家は何年か前にも兄との交換留学生を受け入れたことがあったのですが、女の子が家に来たのは初めてで、色々と気を遣いながらも、同年代の女の子と一週間近く一緒に過ごせて、楽しかったです。

時間があれば、Staceyをつれてどこかに遊びに行っていたので、Staceyはすごく疲れたと思います。でも、楽しんでもくれたみたいでよかったです。

7日間はちょっと短かったけれど、「アルバイトをしてお金貯めて日本にまた来たい」と言ってくれた時は、めちゃめちゃ嬉しかったです。

帰ってしまった後もメールのやり取りが続いていて、違う国の友達をもつことの楽しさ、嬉しさ、大切さを実感しています。ホームステイの間、葵を支えてくれた人たちに感謝します。

## ホストファミリーを終えて

Y さん（保護者）

娘が英会話が少しでき、3年前、兄の通学する高校での交換留学プログラムに参加させていただき、オーストラリアからの留学生のホストをした経験もあるということで、今回のケント生の受け入れを引き受けさせていただきました。しかし、私達保護者は会話は全くできず、単語と身振り表情でのコミュニケーションでなんとか乗り切れたかなあと思

っています。前は冬の時期に40日間と割とゆっくりと落ち着いて、いろいろな事をすることができましたので、初対面から帰国するまで、徐々に慣れていけたのですが、今回は7日間とあまりに短い期間でしたから、ゲストと充分にうち解ける間もなく、お別れとなっていました。食事と部屋の世話をしたくらいの印象です。

できる事なら、阿武野高校と1週間ずつ交代するのではなく、北野と、阿武野に最初から振り分けて各々のホストと学校で2週間同じところで過ごさせてあげられたら、ゲスト本人やホストファミリーにとってはよかったのではないかと思います。最後に両校全員集まってパーティがあればもっとよかったとも思いました。

来日したメンバー達も目的がはっきりしていなかったように感じました。日本の高校に来てその授業やクラブに参加し、ルールの違いや勉強、遊びの違いや共通点を発見することはおもしろいだろうと思うのですが、日本語をもっと覚えようとか、日本についてもっと知ろうとかいう姿勢が全くなく、ただ日本の友達を作って、日本でしか食べれないものを食べ、日本でしか売っていないものを買って帰ったという印象です。

今回の留学はそういうコンセプトだったのでしょうか？観光するのもよいのですが、もっと学校どうしが話し合って、高校生が学べる場を提供してあげられないのでしょうか。ホスト生や先輩の子供達に頼り過ぎてしまっているなあと思いました。とは言え、今回のホストの経験は我が家にとって新たな1ページとなりました。

特にアメリカという国で育ったステイシーを見ていて、本当に17才の個人として自立しているし、母国語である中国語に英語、クラブをやっている日本語と3か国の言葉を話せることが特別ではなく、当たり前のように思っているので、世界に目を向けたら日本語だけではやって行けないのだという事を改めて感じさせてくれました。

ただ、アメリカ人であろうが日本人であろうが、考え方や行動は17才、16才の高校生どうし、全く変わりませんでした。娘と同じ様な事に興味を持ち、同じ事をしようとするのが、こちらとしては少し安心し、特別扱いすることなく、平常どおりに接することができました。

帰国後も電話やメールで連絡しております。今後もずっとお互いの交流を続けていこうと思っています。本当に貴重な経験をさせていただき感謝しております。ありがとうございました。

## Daneのホストになって

年 組 K M 君

ダネルが来るまで、外国人と日本人とでは、習慣や感じ方など、どんなに違うだろうかと考えていた。しかし、7日間いっしょに過ごしてみて、アメリカ人も日本人も考え方はそれほど変わらないと思った。ただ、驚くようなこともいくつかあった。

夜、近所みんなが集まって花火をした時、誰が1番長持ちするかの線香花火の勝負をしていたら、ダネルは1番最初に負けたので、あとの人の花火をたいておとした。びっくりした。日本とアメリカでは、ジョークの感覚が違うのだろう。

それから、アメリカでは、16歳から免許がとれるらしく、ダネルも放課後アルバイトへは、自分で車を運転して行っているそうだ！それで、どこへでも、自分の車で行けるから、自転車にはあまり乗らないらしくて、いっしょに自転車でコンビニへ行った時は、日本の狭い道が運転しづらそうだった。ダネルは狭い路地で車がすれ違うのをみて、「ありえない!!」と、うけて笑い出すほど、驚いていた。

また、ダネルはとてもお洒落なやつで、毎朝ヘヤーアイロンで、髪型を整えていて、それもびっくりした。

残念だったのは、ダネルはシアトルに住んでいながら、全く野球が好きではなかったこと。イチローの話とかで、盛り上がりたかったのにな。他のスポーツにも興味はなさそうだった。

逆にダネルが不思議がっていたのは、北野ベースボールチームが チャンピオンでないこと。僕達が、朝練、昼練、放課後に夜の筋トレと頑張っているのに、なぜ？と思ってくれたみたいだった。チャンピオンになれるようもっともっと頑張るよ！と答えた。

ダネルは177センチあるのに、とても少食で、食べる量は、僕の妹の半分くらい！しかも肉が嫌いで、ご飯と魚と野菜が好きだった。日本食に向いているのはよかったが、今まで抱いていたアメリカ人のイメージとは大違いだった。

心配していた英語は思ったより通じた。初めから、緊張して黙り込んだりしてしまうこともなく、いろんな話ができてよかった。知らない単語はお互い電子辞書で引いたりして、なんとなかった。でも、通じていると思って勘違いしていたことが、あとでわかったりもした。もっともっと英語の勉強は必要だと感じた。

空港では、ダネルの家へ遊びに行く約束をした。ダネルは「来年おいで！」と言ってくれたけど、「クラブは休めないから、大学になったら！」で話はまとまった。



驚きながら過ごした7日間。ダネルの滞在はとても貴重ないい経験になった。これからの人生にきっと役立つだろう。

## ホストファミリーを終えて

Kさん（保護者）

入学して間もない頃、交換留学制度があることを知り、「外国の高校生がうちに来てくれたら、さぞ楽しいだろうね」と、家族で漠然と話したりしていました。ただ、真直自身は、初めて会う留学生と二人きりで過ごす時間、気まづくならないか心配だったようで、躊躇っていました。が、小林先生にも勧めていただき、同じ野球部のお友達(徳永くん)が、留学生の滞在中いっしょに泊まりに来てくれることになり、3人でならやっていけそうと、応募することにしました。

受け入れが決まってからは、食事のメニュー決め・余暇の過ごし方・部屋の準備・年末以上の大掃除・・・とあわただしく毎日が過ぎていきました。

真直とダネルは、呼び名や趣味、日本の気候（持ってくる服はどんなのがいいか?）・等を事前にメールでやりとりしていて、ダネルのお母様から私へもメールをいただき（感激!）辞書を片手に、英作文を楽しみました。

そして、いよいよ受け入れの日! ダネルはすらっと背の高いシャイでおとなしそうなお洒落な男の子でした。おとなしくはあったけれど、アメリカ人らしく(?)自分の意思ははっきり伝えてくれる子で、例えば、眠くなったらそう言って寝るし、おなががいっぱいになれば無理しては食べない、予定している行事を伝えと、「カラオケは阿武野高校で行ったのもういい」し、「銭湯は水着を着ないのなら入りたくない」、「箕面の滝は行ってみたいけれど、それで時間がなくなるなら買い物へゆっくりいきたい」等等、けっしてわがままではなく、はっきり意思表示してくれたので、こちらが案ずることなく、その点でもやりやすかったです。

平日は真直たちと学校へ行くのですが、土曜日の昼間は、ダネルの希望で、私と下の娘といっしょに買い物へ行きました。普段、アメリカで、放課後はお店でアルバイトをしており、そのお金で日本で買い物をするのを楽しみにしてきたそうです。友人や両親への土産、自分のTシャツ(6枚も!)などを買って、特にスヌーピーはアメリカでは古すぎて、Tシャツなど売っていないそうで4枚も買っていました。ダネルはかわいらしいものが大好きで、いろいろ見つけては、日本語で「カワイイ!」を連発し、写真を撮っていました。

買い物中に私が人にぶつかり思わず「Sorry!」と言ってしまって軽蔑の眼で見られ、そのことをダネルに話して大笑いしたのも、いい思い出です。

土曜日の夕方は、部活の終わった真直や1 - 7のお友達と北野で待ち合わせて、ダネルの希望でボーリングへ行ったそうです。盛り上がったようです。

その日の夜は、ダネルに会いたい近所の人たちが20人以上も集まってくれて、空き地で花火大会をしました。アメリカでは、花火は独立記念日にしかないそうで、日本の花火を楽しんでくれました。

日曜日は、真直たちは野球の試合で朝も早く帰りも何時になるかわからなかったので、3年生の杉岡くん（この3月に留学し、ダネルの家に滞在したそうです）に案内をお願いしました。他の留学生やホストの人たちともいっしょに海遊館などへ行き、楽しい一日だったようです。

予定のない夜は、子供たち4人で、ウノなどのカードゲームや、ダネルも同じものを持っているというテレビゲームでも遊んでいました。また、持ってきた小さいころのアルバムを見せてくれたり、お土産のアメリカの本を読んで説明してくれたり、16歳から免許をとれるので、アルバイトへは自分の車で行っていることや、高校を卒業したらワシントン大学へ行きたいことなども話してくれました。日本の文化や浮世絵、漢字などにも興味があり、1枚ずつ絵柄の違う浮世絵のトランプなどをプレゼントすると、とても喜んでくれて、「痛むのが心配だから、使わないで大切にしまっておく」と言っていました。

食事は、初めは洋食を考えていましたが、メールのやりとりで、お寿司をはじめ日本食が好きなことがわかり、お母様からも「アレルギーはなく、何でも初めてのものにトライするのはいいこと」というメールをいただいたので、せっかく日本に来るのだからと思い、和食中心の献立を準備しました。

ダネルは、ご飯とお味噌汁、お魚、野菜の好きな、とても少食な子で、お肉は好きではないようなので、予定していた豚カツや牛丼はやめて、お魚を焼いたり、ムニエルにしたりしました。朝、シシャモを焼いても丸ごと食べてくれて驚きました。天婦羅はとても気に入ってくれて、1番好きな種類は椎茸とオクラだと言っていました。肉じゃがはお肉は食べずジャガイモだけ食べ、手巻き寿司やカレーもおいしそうに食べてくれました。お弁当ではソーセージや鶏の照り焼きなどは入れても箸をつけていませんでしたが、焼きそばや卵焼きなどは気に入ってくれて、ご飯（おにぎり）も毎回残さず、食べて帰ってきてくれました。朝食は、ご飯かパンかをダネルに決めてもらうとご飯になり、ほとんどの日がご飯とお味噌汁、おひたしに焼き魚か卵焼きといった和食になりました。外国の子どもたちは、食事中にも炭酸飲料を飲むと聞いていたので、コーラなども用意していましたが、

いつ勤めても「今は日本茶の方がいい」ということで、結局一本も開けませんでした。ファーストフードも嫌いと言っていて、とてもヘルシーな食生活の子で助かりました。お箸も完璧ではありませんが、上手に使っていました。

受け入れ前はさまざまなことが心配で、随分悩みもしましたが、ダネルは優しくとてもいい青年で、心配ごととも気にならなくなり、私の拙い英語も一生懸命聞いてくれて、楽しく充実した7日間が、あっという間に過ぎました。充分にできなかったこともたくさんあると思いますが、空港で、「I miss you」と言ってもらい、本当に寂しくなりました。

短い期間でしたが、ダネルを我が家に迎えられたことは、家族共有の、たいへん貴重で素晴らしい経験となり、とても楽しい思い出となりました！！このような機会を与えてくださった小林先生をはじめお世話になりました先生方に心より感謝しています。また、いっしょに過ごしてくれた徳永くんをはじめ1 - 7のお友だち、3年生の杉岡くん、他のホストのお友だちやそのお母さま方、本当にありがとうございました！！

## 第4章 交流を終えて

Bonnie Lew( escort teacher )

My visit to Kitano (hosts, school, surrounding areas) was very pleasant and memorable. Kitano High School was impressive in size, beautiful in landscape and architecture, and quite clean.

All of my hosts, Ms. Kato, Mr. Ueda, and Ms. Takahashi showed me endless amounts of hospitality. They gave me a nice room, fresh linen, delicious meals, and took me to sights around the cities. I hope one day I can be a gracious host to them in America.

I especially enjoyed walking under the covered market streets ? the longest one (2.6 km) with Ms. Kato. We shared many stories and lifestyle differences between Japan and America. She treated me to lunch and dinner, and later I had the chance to play pachinko. It was my first time ever. We didn't win any money but we will have fond memories forever.

On another out Ms. Sasaki and her family took me out to lunch in Osaka City. It was a delicious meal! I truly enjoyed my time with her 3 young boys. We visited

the beautiful and intriguing Osaka Castle, and later the famous Osaka Aquarium. It was quite a fun-filled day and I loved every minute of it.

Kitano staff and students made me feel welcome everyday. They would nod their heads in passing or ask "How are you doing?" The teachers treated me to an exceptional Japanese dinner. I am sure I ate too much but it was difficult not to try everything offered.

I will especially remember getting the chance to teach in Mr. Fukumoto's class. I was nervous because I did not know what to expect but the students were relaxed and Mr. Fukumoto helped explain in Japanese whenever necessary. I am so glad he let me teach a lesson in Japan!

I attended different classes at Kitano. All the rooms were quite clean. The students take pride in keeping their school not only clean but beautiful as well. I noticed many plants along the hall corridors and stairwells.

I cannot say I liked one class more than another because all of the classes were great in one way or another. Some classes were strictly lecture type only, other classes there was student participation, and some classes were quiet and some were noisy. It was fun to experience all these kinds of classrooms and see the different teaching and learning styles. But, the most important aspect I noticed was how the students worked together, or students with staff on a very close and friendly basis. There may be a lot of competition between Japanese people but there is no fighting. They have a lot of respect for people above and below them? this is a virtue that all people in the world should behold.

My two week stay in Japan has been filled with fabulous memories, new friendships created, and a high respect for the people in Japan. I truly hope our International Exchange Program continues for many years. This program would not be possible without Mr. Fukumoto and Mr. Kobayashi. Thank you for making all of the arrangements and seeing to our well being. I also extend my appreciation to Mr. Ishimoto for allowing this exchange to occur. You have opened your school, homes, and hearts to us, your gestures will never be forgotten.

Lynn Hoang

Japan was a once in a lifetime experience that I'm glad I decided to go. The people at Kitano High School were all very friendly and nice. They can all speak English really well! At first I thought the students were all very quiet and studied a lot. However I found out that although it's true that most of the boys are shy, they can be really outgoing once they open up. I loved how most of the students would just come up to me and say *gih*. Everyone here at Kitano all study hard, but it surprised me when I entered some loud and outgoing classes. It was a nice surprise. I assumed they were dead silent all the time. I was very wrong.

There were many differences that I found between America and Japan. However I thought I should emphasize the importance of train transportation. Everyday I traveled by train to and from school, making many stops, sticking in the train ticket several times, and changing trains once or twice along the way. At times it got really crowded and it was a fuss pulling out that ticket from my backpack, but if I could, I would travel by train to Kentlake all the time! It was fun exercise!

School life at Kitano High School was certainly different than I expected it to be, but in a good way. Almost everyone seemed to be involved in a sport and it amazed me how the kids had so much dedication to their after school club or sport. They even came to school on Saturdays! The students let us play with them using their own equipment sometimes, that was really nice of them! It surprised me how pretty much all of the students can stay awake during class and keep so quiet. They never asked any questions so it seemed like they were learning in a college setting already! I also learned from my host that like in America you are only allowed to choose between certain electives such as music, fine arts, or calligraphy.

Outside of school, I noticed there were vending machines at almost every street corner. At home, I noticed how the family would say something before and after a meal all the time. It would probably be equivalent to saying a grace and giving thanks in America. Also they drink a lot of tea!

I appreciate Japanese culture a lot more now. I'm glad I got to meet such wonderful people on my trip to Japan. I will never forget those friendly faces and all of the friends I made!

Lauren Bower

hThe students smile and laugh as they teach me some more of that unique Osaka slang. Although I do not take a Japanese class back at home, I feel fortunate, to say the least, to receive some type of lessons on Japanese vocabulary, slang or not. Not only did I learn the Japanese style hlingo; I learned where the best apple juice was to be bought; who the hottest singer was of the month, and what exactly was and was not stylish as far as how one should wear their school uniform. Learning all of these things was both eye opening and very enjoyable. However, the most treasureable part of my experiences was learning the drastic differences of American and Japanese cultures, and importantly learning to absolutely love it.

Japanese culture and American culture are two very different things. I have recognized the beauty and difference in both of them. Differences make up this beauty. From the drastically different sizes in roads and cars and even people, to the deeper and non-tangible aspects of culture, differences are present. The physical differences of culture are apparent: uniforms in school, narrower roads, smaller cars, and the use of chopsticks instead of forks. And, although I was surprised to discover these things during my stay in Japan, most of the previous factors are considered common knowledge. It is the more important and deeper aspects of culture that are less obvious. Perhaps these underlying parts of culture are like diamonds; they are rare and difficult to find yet they are so precious and beautiful. You may be wondering c What are these underlying f aspects?hWell, they are the differences in expressing emotions between Americans and Japanese. They are the different gestures: i.e. the handshake versus the bow, and the smiles to strangers versus, well, lacking of smiles to strangers. They are the couple only hand-holding versus the friendly hand holding. They are the Japanese ways of valuing the process versus the American ways of valuing the outcome. Everything seems to be opposite. Morals, gestures, expressions cyou name it. It is very inspiring to see and recognize all of this.

My experience in Japan was outstanding. I tried very delicious food, and also food that I thought I would never try: raw octopus leg, raw octopus head, and

eight different types of raw fish. I had the one and only Calpis, and the green tea ice cream. We went to Kinkakyuji Temple in Kyoto, and went shopping at over a dozen shops. We went to restaurants of many different types. We did karaoke. We took purikura, and had a blast. There is nothing like hanging out with hosts and friends. The great part about this Exchange Program is that we have the opportunities to spend time with old friends that we have hosted in the past. It is one of the most heartwarming reunions you could ever have. With them we went to the aquarium! Amazing! I have no room to list all of the exciting and wonderful experiences that I have had. My host families were both absolutely wonderful. I could not have asked for more. Thank you cto everyone. This experience has forever changed me.

Stacey Chow

A new week a new school, I was excited to be going to Kitano. It was very interesting comparing the school to Abuno, things were done very differently. Kitano students worked very hard, I was surprised.

School education system is very different in each school. Clubs at Kitano work very hard, I was very surprised. No one in my school work that hard in clubs. I can see the dedication they have. Also, everyone f very quiet in class, they study very hard. I had a great experience in this school. Everything was just great! I fve met new people and learned new things.

I fl remember the experiences and the memories I fve had. I fl make sure that I come back to this school.

Danel Khusainov

Coming to Japan was an eye-opening experience. It was an opportunity to witness firsthand an entirely different way of life. Many aspects of my life in America were almost identical in Japan, such as waking up and going to school. However, these similarities were overshadowed by the striking differences. Instead of riding a school bus, I would walk to a station and take a train, followed by another walk down the streets of Osaka. Kitano High School was a complete change from my school in America; impressive on the outside, and even more

impressive within.

My first impressions of Kitano had been of cleanliness and order, and the students seemed studious and withdrawn. However, having hosted a Kitano student in America prior to my trip, I knew they were as fun loving as any other teenager, Japanese or American. The days spent at Kitano flew by so fast: my host Masanao Kaneko was in the baseball club, so after school I would wander around the school with the other Americans since their hosts also had various clubs. Most of the Kitano students were participating in a club, so school really wasn't finished for them until about 6.00pm or later. It really surprised me how dedicated the Kitano students are to their school.

Another shocker for me was the Japanese teaching style. For a whole hour the teachers would lecture without response, and the students simply took notes. Questions coming were rare, leaving me to wonder what happened if a student ever had difficulty with a problem or homework.

At lunch, I was surprised to find how much freedom the students were granted at Kitano, able to eat their lunches almost anywhere. The cafeteria food was actually cooked and very delicious; a big change from the frozen food at Kentwood.

I will never forget my adventures in Japan ? one of the best times of my life.